

○第1次の学習活動

【ねらい】

登場人物の姿を通して、人を思いやることについて考えさせ、それを行動に移そうとする実践意欲と態度を育てる。

【育てたい資質・能力】

◎価値的・態度的側面（相手のことを思いやり、行動しようとする意欲・態度）

【展開（1時間）】

学習活動	●指導上の留意点 ☆人権教育上の配慮 ◎人権教育に視点をあてた評価の規準
① めあてを知る。	
人を思いやることについて考えよう。	
② 点字ブロックについて確認する。	●点字ブロックの役割を共通理解させる。
③ 「思いやりのかたち」(『道徳』光村図書)を読む。	
④ 「三宅さん」と「わたし」の行動を比べる。 「三宅さん」…点字ブロックを考案した。 「わたし」…点字ブロックの上に自転車があることに気付いた。 困っていた目の不自由な方を案内した。	●思いやりの表れ方が違って、そこに込められている思いに共通するものがあることを捉えさせる。
⑤ 「わたし」がいつもの帰り道がとてもすてきな場所に思えたのはどうしてかを考える。	●相手のことを思いやって行った自分の行動が人の役に立ったという充実感に気付かせる。
⑥ 自分にできる「思いやりのかたち」を発表する。 (予想例される児童の反応例) ・ケガをした友達を保健室に連れて行ってあげる。 ・家族の手伝いをする。 等	●日常生活において支援が必要な場面を想起させ、自分ができる「思いやり」について考えさせる。 ☆自分事として捉えさせ、実践意欲と態度につながるようにする。
⑦ コラム「見えないしょうがい気づくこと」を読む。	●様々な障害があることや、身体障害以外にも見た目では判断しにくい障害があることを、写真等を提示して補足説明する。
⑧ 本時を振り返る。	◎思いやりの心をもって行動しようと考えている。【価値態度】

○第2次-1の学習活動

【ねらい】

- ・障害は、心や体の機能によるものだけでなく、社会の仕組みによっても生じることを理解する。
- ・障害の有無に関わらず、誰もが生活しやすくなるよう、社会における様々なバリア（障壁）を取り除く方法を考える。

【育てたい資質・能力】

◎知識的側面（バリアフリーに関する知識）

◎価値的・態度的側面、技能的側面（社会における様々なバリア（障壁）を取り除く諸技能）

【展開（1時間）】

学習活動	●指導上の留意点 ☆人権教育上の配慮 ◎人権教育に視点をあてた評価の規準
① 第1次を振り返る。 ② めあてを知る。	
「共に生きる社会」のために自分たちにできることを考えよう。	
③ バリアフリーの考え方を知る。 ④ 資料から、暮らしの中でバリア（障壁）になっていることや、バリア（障壁）を取り除くために、自分たちができることを話し合う。	●多様な人が社会生活を送る上でバリア（障壁）となるものを取り除くという考え方について説明する。 ●バリア（障壁）を取り除くことで解消されることがあることに気づかせる。
 <p data-bbox="272 1630 679 1688"> 「心のバリアフリー」広報誌令和5年2月第4版 （作成：福岡市福祉局生活福祉部地域福祉課）より </p>	◎障害の有無に関わらず、誰もが生活しやすくなるよう、バリア（障壁）を取り除くために、自分たちにできることについて考えている。 【価値態度・技能】
⑤ 人権啓発ビデオを視聴する。 「わたしたちが伝えたい、大切なこと～アニメで見る全国中学生人権作文コンテスト入賞作品」 【共に生きるということ】 https://www.youtube.com/watch?v=CkRLfBBuseE	●必要な支援を行うことで、バリア（障壁）を取り除くことができることを確認する。
⑥ 本時を振り返る。	◎障害は、心や体の機能によるものだけでなく社会の仕組みによっても生じることを理解している。【知識】

○第2次-2の学習活動

【ねらい】

- ・車いす体験を通して、当事者の立場で「バリア（障壁）」を感じる。
- ・社会における様々なバリア（障壁）を取り除こうとする意欲・態度を高める。

【育てたい資質・能力】

- ◎技能的側面（当事者の立場でバリア（障壁）に気付くための感受性）
- ◎価値的・態度的側面（課題解決に向けて取り組もうとする態度）

【展開（2時間）】

学習活動	●指導上の留意点 ☆人権教育上の配慮 ◎人権教育に視点をあてた評価の規準
① めあてを知る。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 車いす体験を通して、当事者の立場で「バリア（障壁）」を感じてみよう。 </div>	
② 社会福祉協議会の方の説明を聞き、車いすの乗り方や介助の方法を知る。	
③ グループで車いす体験をする。	●学校内に指定したコースを移動させる。 ●バリア（障壁）や、自分たちにできることを考えながら取り組むように促す。
④ 体験を振り返り、学校に車いすで生活する友達がいるという想定で、友達のために自分たちができることを考え、グループでワークシートにまとめる。	☆多様な意見が出るように配慮する。 ◎車いす体験を通して、当事者の立場で学校内にあるバリア（障壁）に気付いている。【技能】
⑤ 発表する。	
⑥ 社会福祉協議会の方の話を聞き、活動を振り返る。	●体験してみてわかったことや今後の生活にどう生かしていくかを記述させる。 ◎バリア（障壁）を取り除くためにできることを考えている。【価値態度】

ワークシート

車いすで生活する友達といっしょに学校生活を送るにはどうすればよい？

はんのみんなで考えてみよう！

※ルール → みんなちがってみんないい。同じ意見でなくてもOK。だから、みんなで意見を出そう！

	バリア（しょうへき）	みんなができること	先生にお願いすること
学校生活	<ul style="list-style-type: none">• かいだん• はしら• 急カーブ• だんさ• とびら• みぞ• しょう害を考えていない遊びやスポーツ	<ul style="list-style-type: none">• 通路にじゃまなものを置かないようにする。• ろう下を走らないようにする。• おたがいに楽しめるルールを作る。• ふだんから仲良くし、言いたいことを言える関係になる。	<ul style="list-style-type: none">• スロープを作ってもらおう。• いどう教室を少なくしてもらおう。

ワークシート

車いすで生活する友達といっしょに学校生活を送るにはどうすればよい？

はんのみんなで考えてみよう！

※ルール → みんなちがってみんないい。同じ意見でなくてもOK。だから、みんなで意見を出そう！

	バリア（しょうへき）	みんなができること	先生にお願いすること
学校生活			